

帯広市における外国人観光客誘客のための方向性検討に係る分析（概要版）

帯広市では、道内の外国人観光客の訪問先が道央圏に集中している中、帯広市を含む道東圏への誘客を課題としている。そこで、RESASを活用し、自地域における誘客の改善点を把握するとともに、道東の近隣市との連携による相互の強みを生かした観光施策の展開を検討。

1. 来道外国人観光客の行動パターン

【分析ポイント】

- ▶ 北海道を訪れる外国人観光客の道内周遊状況を分析(図1より)。

【分析結果】

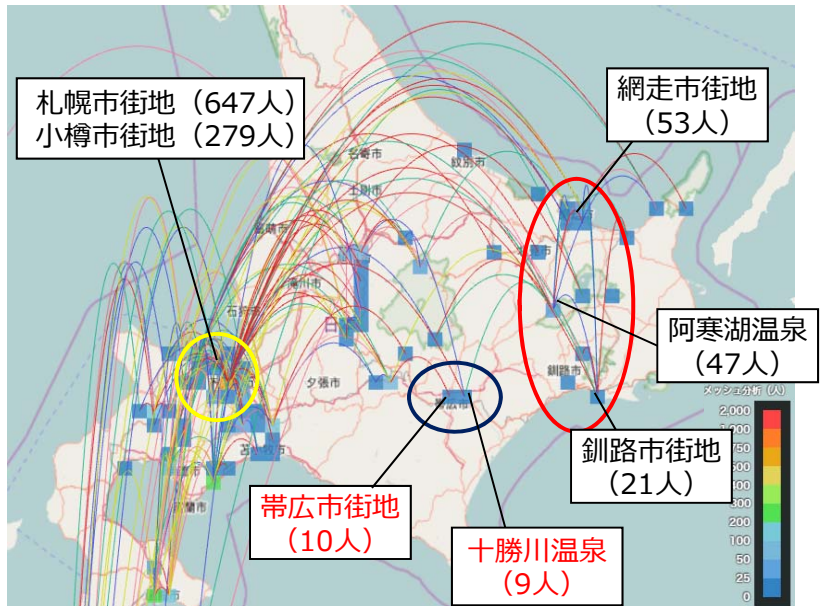
- ▶ 道内での外国人観光客の訪問先は、札幌市、小樽市など道央圏に集中。
- ▶ 釧路市、網走市には合わせて121人と一定の訪問数があり、札幌市、小樽市との周遊関係性も強い。
- ▶ 一方、帯広市には訪問客が19人と少なく、いずれの都市とも関係性が弱い。



【得られた結論・今後の展開】

- ▶ 帯広市のみで誘客拡大に取り組むのではなく、釧路市、網走市と連携して誘客に取り組むことの重要性が確認できた。
- ▶ 実際に、とち帯広空港では、国際チャーター便数が減少しており、その対応策としても、帯広市以外からの周遊促進施策が有効だと考えられる。

(図1)「観光マップ：外国人メッシュ分析10kmメッシュ」
2014年11月～2015年4月
(データ出所：株式会社ナビタイムジャパン「インバウンドGPSデータ」)



2. 道東地域の都市間比較による帯広市の強み・弱み

【分析ポイント】

- ▶ 道東で外国人観光客が多い釧路市、網走市と、帯広市の観光関連産業(飲食店、宿泊施設)の事業所数割合を比較し、帯広市の強み・弱みを分析(図2より)。

【分析結果】

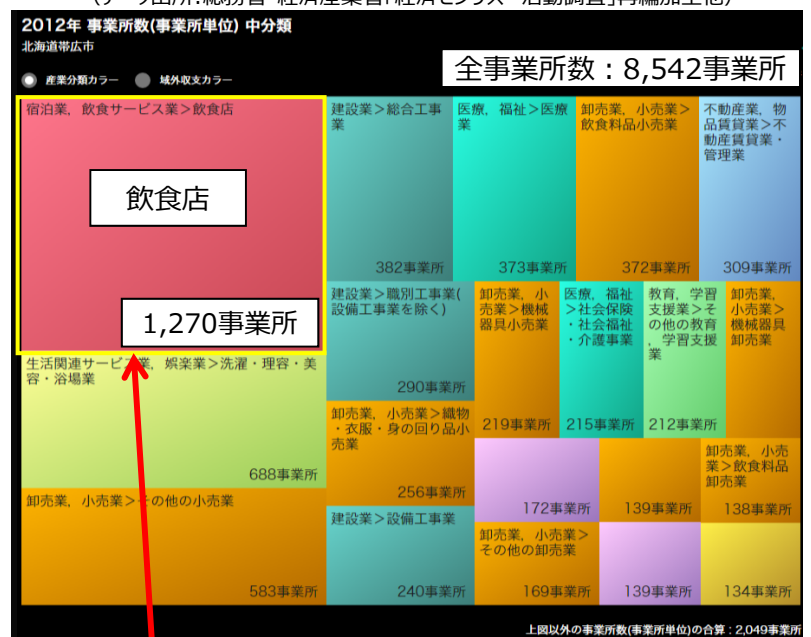
- ▶ 他市と比べて帯広市の飲食店数の割合は15.0%と最も高く、「食」に強みを持つ。
- ▶ 一方、宿泊施設数の割合は1.1%と最も低く、宿泊客の受け入れ体制に弱みがあり、通過型の観光都市だと示唆される。



【得られた結論・今後の展開】

- ▶ 豊富な農畜産物を背景に帯広市は、飲食店数は多く、食が強みであることを再認識。
- ▶ 一方、観光には欠かすことが出来ない宿泊施設は少なく、周遊促進を図るには課題となる。
- ▶ その解決方策として、釧路市や網走市との連携を推進することで、他市で宿泊しながら、帯広市には食を楽しみに訪れるよう誘引するなど、強みを持ち合う観光施策が有効である。

(図2)「産業マップ：全産業花火図 事業所数(事業所単位)」
中分類産業分類カラー 2012年
(データ出所：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工他)



飲食店の事業所数

| | |
|-----|-----------------|
| 帯広市 | 1,270事業所(15.0%) |
| 釧路市 | 1,194事業所(14.1%) |
| 網走市 | 225事業所(11.9%) |

宿泊業の事業所数

| | |
|-----|--------------|
| 帯広市 | 96事業所(1.1%) |
| 釧路市 | 135事業所(1.6%) |
| 網走市 | 47事業所(2.5%) |

※()内は全産業における割合